

令和2年度 玉名女子高等学校 学校関係者評価報告

学校関係者評価委員会

実施日 令和3年3月25日（木）

出席者 法人評議員と保護者代表PTA役員

- 平成2年度参観行事：新型コロナウイルス感染症対策のため、今年度の参観はなし。
- 自己評価の分析について 資料の配布と説明（校長）
- 感想・意見や提案（評価者）

1 「学校評価アンケートについて」

「学校評価について」

信頼性の高いデータを収集し、的確な分析がなされている。毎年、単年度あるいは経年分析をされており、風通しのよい根拠に基づいた取り組みとを感じる。重点努力目標に対する自己評価総括については、緻密に実態に即して評価が行われている。十分にまとめられていて、各重点目標に基づいた努力がわかる。結果から見える課題と改善策に基づき、常に取り組みすることができている。目標達成を数値化する、時期を少し早くし、次年度の目標設定に役立てられるとよい。また、校務分掌別、学年別、科別で集約することで、仕事の分析ができる。

重点目標（1）基礎学力の充実のための取り組み 専門性習得のための指導力強化

読書の習慣をつける工夫がなされているが、図書館利用は増えていない。生徒と教職員がともに読書する環境整備がなされ、基礎学力が高まることを期待する。

学力低下は学校の評価を下げ、入学希望者の減少という悪循環をもたらす。入学後、学力が伸びればその悪循環も断ち切れる。学校として授業研究や校内研修の充実を図るとともに、ICT教育など教育環境の整備をし、学力差がある生徒一人ひとりが意欲をもって取り組める授業づくりが必要である。

専門教育については、生徒及び保護者の満足度が高く、検定にチャレンジする生徒数、合格率ともに伸びており、生徒の意欲を高める取り組みの成果が出ている。一方で資格取得や検定合格率に対して、生徒の肯定的回答が低下してきている。低下の原因をしっかりと把握し、対策を講じて改善を図る必要がある。

専門高校と普通科高校の両方を併せ持つという特色を売りにするためには実績が必要である。受験希望の大きな要因である学力保障・進路保障について、十分に評価されていないという印象を受ける。教員の指導力を向上させるとともに生徒の満足度を高める試みとして、カリキュラムマネジメント、ルーブリック評価の導入に取り組んではどうか。

重点目標（2）基本的な生活習慣の確立を図るための取り組み

生徒及び保護者の満足度は総じて高く、一人ひとりの生徒を大切にしている様子が窺える。気持ちのよい挨拶や掃除に関する生徒の肯定的回答が、教員や地域の人たちの評価に比して思ったほど高く

ないが、服装や髪型も整っていて好感が持てる。生徒会と連携するなどして、生徒の意識を一層高めながら、深い生徒理解に基づいた指導を継続してほしい。

重点目標（3）文武両道（教師によるマネジメント）

コロナ禍による学校行事や部活動の大会等の縮小、中止により、生徒にとっては力を発揮する場が奪われ、不完全燃焼に終わってしまい、それが評価にも反映されている。学業と部活動の両立、ボランティア活動など先生方もよく努力されていると思う。

特進コースができたことで、これから文武両道の結果が出ると思う。

高校生活の目標や自己の夢、進路などについて自己理解を深める指導、1年次からの取り組みを重視した3年間を通した継続的、発展的な進路指導の推進が必要。

重点目標（4）人権・同和教育の推進

課題のある生徒を多く受け入れ、成果も出しているが、生徒の悩みや相談に対する対応についての生徒及び保護者の評価が低下傾向にある。その原因を、教職員全員が共有する。業務繁忙で一部対応に十分な時間を確保できないなどが考えられるが、相談できる関係づくりに努め、信頼関係を高め、教育相談活動を充実させる。

先生方がいじめのない環境づくりに努力している姿が、生徒の肯定感の高まりとなって表れている。いじめはゼロでないという認識をもち、生徒が安心して楽しめる学級・学校づくりを目指してほしい。

コロナ禍でボランティア活動は難しい状況であるが、全校で、または、PTA、同窓会、地域と一緒に活動ができるとよい。

重点目標（5）働き方改革の推進

特記事項なし

2 「入試分析」について

少子化、地元の公立に定員割れが多い中、増減はあるが一定のよい状況で推移している。荒玉地区の増加傾向、ビジネス科の増加は喜ばしい。

普通科、看護科の減少はコロナ禍に起因するのではないかと（県外からの移動がままならないため）。看護科受験生が漸次減少傾向であること、入学生の定員を下回る状況は厳しいものを感じる。

入学者減少幅縮小は、高校授業料実質無償化による公私間格差が縮小したところも要因であるが、県北地域の各高校で大きく減少する一方で小幅の減少に踏みとどまったのは、地元における評価の現れだと思う。熊本市内校への一極集中や県北地域他校等の状況などデータが集まり次第、しっかり分析する必要がある。

3 魅力ある学校づくりと生徒募集

「学校が明るく楽しいと感じる。」「この学校に入学してよかった。」に対する生徒の肯定的回答の

割合の低下は学校の課題の一つ。対策を立てて改善を図る必要がある。学年が上がると肯定的な回答の割合が高くなる事実が、時間をかけての理解と実感といえる。卒業生やその保護者の口コミが大事なので、そのため今の子どもたち、保護者と学校の信頼関係をしっかり結ぶ。

学業、部活動、趣味、学校行事など、「何でもいい、努力すればできる」という女子校らしい行動で頑張る生徒になれるよう、また、これまで玉女に求められていた、学力の低い生徒も高い生徒も大切に受け入れ、卒業後の生徒の生き方を楽しみに心から見守る姿勢を忘れない。

創立 100 周年を迎えるにあたり、建学の精神が学校経営の方針や運営、教育方針、教育内容や方法とどのようにつながっていくかについて、また、玉名女子校が県北、あるいは玉名・荒尾という地域でどんな学校であり続けるのか、再定義のための議論をし、共有することが必要。今取り組むべきこと、中期に考えること、長期で構想すること、この三点をいろんなレベルで論議していってください。100 周年から先の未来に向けては、今いる先生方からの発案や実践が必要であろう。他校への研修等体験や研修を積み、実行できる力を育成してほしい。選ばれる魅力ある学校づくりは、魅力ある先生・指導力のある先生の存在にかかっている。

県立高校も魅力ある学校づくりに本格的に取り組み始めている現在、さらに踏み込んで取り組まないと遅れをとる可能性がある。地域とのつながりは玉名女子校の強み。玉名女子高のプラス面はいろんな意味での「身近さ」「親密さ」だと思う。これを深化させるには教職員一人ひとりのスキルの深化が重要。漫然とするのが一番いけない事である。漫然とやっていないか、繰り返し問いかける工夫を。

特技奨学生だけでなく、他の入学者数を増加する方針にして、魅力ある学校づくりにしたらどうか。

他の私立高校より入学辞退率が低いことは、玉名女子校に行きたいから受験するという生徒が多いということであり、これも特徴。

地域で活躍されている玉名女子高同窓の方々と同窓会で結びつくことが大切。生徒募集などへ広がっていけば幸いだと思う。

所感

ホームページの更新も早く、保護者の安心や卒業生が懐かしさを感じるものではないかと思う。コロナ禍でも様々な状況に応じ、素早い対応ができていた。生徒の評価で「安全」に配慮しているという満足度が高いのは評価できる。

近年全国でもバスの事故を聞く。運転でなく、バスの整備点検を。命に関わることなので、保護者が一番気になる場所である。

建物の老朽化など、生徒の安全を確保するためにも、中長期的な維持管理や改修等の計画を策定し、予算に反映させることが必要。それに伴い校納金の検討も必要になると思うが、計画があれば保護者の理解も得やすい。

時節柄、制服にズボンを取り入れるかどうか、議論が必要である。